

国際会議FATIPEC'98に参加して

森 寛爾

Impression of FATIPEC Congress'98

Kanji Mori

1. はじめに

FATIPEC (Federation d'Association de Techniciens des Industries des Peintures, Vernis, Emaux et Encres, d'Imprimerie de l'Europe Continental) は、フランス、ドイツ、オランダ、ベルギー、スイス、イタリアおよびハンガリーの欧州7か国の色材関連学協会 of 連合組織で、各国持ち回りで2年毎に国際会議を開催している。FATIPECはまた、米国のFSCT (Federation of Societies for Coatings Technology)、英国のOCCA (Oil & Colour Chemists' Association)、日本の色材協会などと色材関連の国際的な組織であるCSI (Coatings Societies International) を構成し、本会議は色材関連では最大級の国際会議である。今年はその第24回で、6月8日～6月11日にスイスのインターラーケンで開かれた。インターラーケンはアイガーやユングフラウへの登山拠点となる古くからの観光地であるが、豪華な内装の国際会議場Casino Kursaal Congress Centerがあり、今回の

ような国際会議がよく催されるようである。

以下に、標記国際会議に参加し、ドイツおよびスイスの塗料関連の研究機関を訪問した印象などを紹介する。



アイガー北壁



Casino Kursaal Congress Center

2. FATIPEC Congress

講演会3会場とポスターセッション1会場のほか、測定、評価装置を中心とした展示会が期間中を通して開かれた。参加者は24か国から約450名とのものであったが、ドイツとスイスからの参加者が約80%を占め、日本からは3名であった。全体講演と招待講演は合わせて22件、一般発表は66件、ポスターセッションは20件であった。

会議の公用語である英、独、仏語の同時通訳は、全体講演と招待講演には付いたが、一般発表にはなかった。ドイツ語圏からの参加者が大勢であるせいもあって、予稿とOHPは英語で講演はドイツ語という発表者もあった。

今回は酸性雨による自動車塗膜のエッチング発生機構についてトヨタ自動車と連名で発表した。欧州は早くから森林や建造物などに酸性雨の被害を受けた地域でもあるためか、質疑時間だけでなく、休憩時間やホテル内でも多くの参加者から質問を受けた。全般に、欧州は環境問題に敏感となっており、塗装工程から排出される有機溶媒を低減する水性塗料や粉体塗料の開発、実用化に関する発表が目立った。



レセプション会場で

右から Staples OCCA 会長夫妻, Hill FSCT 会長夫妻, 筆者

3. 研究機関訪問

3.1 シュツットガルト大学塗料顔料研究所 (FPL)

FPLは塗料および顔料に関する世界的に著名な研究所である。顔料の分散性に関係する ζ 電位の測定装置など、開発中を含め多数の装置を見学した。基礎研究をいずれも装置開発に発展させ、商品化に繋げていく姿勢は見習うべきと感じた。関連講座のスタッフや学生に対してFATIPECでの発表内容を講演したところ、学生からは、研究手法の着眼点や問題解決の糸口をどのように見つけたかなどについても質問され、研究者を育てる環境が日本の大学より充実していることを感じた。

3.2 PPG社

シュツットガルト近郊にあるテクニカルセンターを訪ねた。訪問の直前に、アウトバーンが渋滞するほど雹(ひょう)が降って驚いたが、現地の人

はよくあることだと意に介していなかった。PPG社の粉体塗料は、1997年からBMWの3シリーズの生産で使われており、今後5, 7シリーズにも採用される予定であるとのことであった。見学した設備は寒冷な気候を反映し、耐候試験機は少なく、チッピング試験装置が充実していた。

3.3 BASF社

ドイツ北部、ミュンスターの郊外にある研究所を訪ねた。BASF社は、粉体塗料を水に分散させたスラリー塗料をベンツに納品している。スラリー塗料は高価であるが、電着から上塗まですべてBASF社製塗料で塗装し、塗装設備メーカーも1社にすることによって従来並みのコストで塗装できるとBASF社が提案し、ベンツに採用されたということであった。スラリー塗料で塗装された戦略的小型車である「Aクラス」はフランクフルト空港の一角を誇らしげに占めていた。



ベンツ「Aクラス」

3.4 Ciba specialty chemicals社

この会社はスイス、ドイツ、フランスの国境が集まるBaselにあり、昨年3月にチバガイギーから独立した添加剤等の専門メーカーである。日本を含む世界中の拠点の技術担当者をトレーニングしているとのことであった。耐候試験に関しては、光劣化防止剤の評価専用試験機として約20台を使用し、他の着色した材料の試験用の30台以上とともに試験フロアを埋めており、壮観であった。

4. おわりに

塗料関連分野の欧州の専門家に直接接することができ、物や環境に対する考え方が地域によって異なることを肌で感じた。現地では、専門家に限らず、一般の人達も歴史的財産を大切にする価値

観を持っており、高価でも環境に配慮したものが選ばれるとのことであった。水性塗料や粉体塗料などの環境対応型塗料の開発、実践は、まだ当分の間、欧州が牽引役を果たすと思われる。